



2009年

9月



## コミュニティカフェ

「学生の素顔をご存知ですか」—7月19日、鉄道模型を中央に走らせ、それを鑑賞しながらお茶を頂く、鉄道カフェがあとぞらビルで開かれました。主催は大阪経済大学の学生によるサークル、『緑のまちづくりサークル「ミアイ」』です。「てつ子の部屋」と銘打たれたカフェに入ると、地元の小学生が「いらっしやいませ」と出迎えてくれます。彼女たちは大学生の呼びかけに、地元の学童保育所から手伝いに来てくれたのです。来店するお客さんも小学生の笑顔の接客につられてか、つつい笑顔がこぼれている様子でした。

「てつ子の部屋」は、地元の方の協力を頼りに催されるコミュニティカフェです。地域の方に、学生の素顔を知ってもらいたい、自分たちの活動を知ってもらいたいという思いで行われてきました。学生と地域のつながり、広がると思います。(10面に関連記事)

(ミアイ URL <http://maichan.web.fc2.com/>)

### ●目次

#### 特集 大気汚染公害裁判和解後の動き

〈SHITEN〉大気汚染公害裁判和解後の連絡会に参加して	西村 弘	2
歌島橋交差点の横断歩道が消えた!	藤江 徹	4
水都大阪2009「つるむde大阪〜チャリンコでつながるまちづくり」へのご案内		
第13回道路連絡会が開催されました	藤江 徹	6
NO <sub>2</sub> 、SPMの環境基準「達成」?	上田 敏幸	7
アイスト通信、「アイストリーフ」ができました	上田 敏幸	8
〈シリアからの手紙〉③家族のぬくもり	中野 貴行	3
環境再生・まちづくりにとくむNPO若手交流会	眞鍋麻衣子	9
〈リレーエッセー〉自分たちができること	森井 隆二	10
〈忙中一筆〉みんなのまちづくりの思いを…	石塚 裕子	12

## 特集 大気汚染公害裁判和解後の動き

1998年、全国のトップを切って西淀川公害裁判が国・阪神高速道路公団（当時）と和解した。和解後に設置された道路連絡会では、大気汚染を改善するための環境対策について話し合われてきた。和解後の連絡会の動きについて、西淀川を中心に紹介する。

# 大気汚染公害裁判和解後の 連絡会に参加して

西村 弘

### 待望の「差止め」判決

工場と道路からの複合的大気汚染をめぐって西淀川（1978年）、川崎（82年）、尼崎（88年）、名古屋南部（89年）で提訴された裁判は、企業との和解後も、残る道路の責任を国や公団に問い続けてきた。裁判所は、当初、自動車排ガスと健康被害との因果関係を認定せず、たとえ一定の被害を認めても、それらは日常生活上の受忍限度内で道路の公共性を否定するほどのものではない、としていた。また、国の道路設置管理責任も認めようとせず、原告の訴えはいくたびか退けられてきた。しかし、1995年の西淀川訴訟において自動車排ガスの健康影響がはじめて認められ、以来、道路裁判における設置管理者の責任は一般的に認定されることとなる。さらに進んで2000年1月の尼崎訴訟と同年11月の名古屋南部訴訟では、積極的に道路被害を出さないように求める「差止め」判決まで出る。公害裁判における「差止め」こそ、関係者が長く待ち望んできたものであった。

### 「子や孫に青い空、きれいな空気を」

攻勢的に裁判闘争が進む中、1998年以後、上記の4裁判は相次いで国や公団と和解する。その理由は、長期にわたる裁判闘争で原告らが高齢化したことと、そもそも地域において公害被害を出さなくするためには総合的な道路施策を必要とし、それには国や公団の協力が必須のものであったからである。しかし、差止めまで出るようになった道路裁判で、判決をまたずに和解することには異論もあった。けれども、原告が訴えていたのは「子や孫に青い空、きれいな空気を」であった。金をもらっても健康は元に戻らない、昔、赤とんぼが舞っていたような地域を取り戻したい、そうした原告らの願いが、生きていくうちにその方向性を確かめたいという思いとなり、和解に繋がる。道路連絡会は、そのための総合的的道路施策を検討・協議するための組織として、原告・弁護士等と国・公団等との間で開かれることとなったのである。筆者は上記のうち、2001年からはじまった尼崎の道路連絡会に継続的に

参加してきた。以下、その感想をスケッチ的に述べたい。

### 裏切り・強弁：有名無実化

和解には、「現在も多くの患者が健康被害に苦しんでいる」、「大型車の交通量低減の必要性を理解する」といった文言がならんでいたゆえに、道路連絡会では積極的な施策展開が提示されるものと思われた。しかし、その期待はものの見事に裏切られた。国（近畿整備局）は原告・弁護士との協議抜きで一方的な事業展開を行い、連絡会ではその説明に終始したうえ「和解を忠実に履行している」と強弁した。挙げ句の果てには「交通規制は警察の権限だから」と大型車の交通規制の可否の検討を兵庫県警に丸投げし、「県警は全面通行禁止にはできない」と回答してきたので何もできない」と、これ以上連絡会で議論することはないという態度を示した。もとより、求めてきたのは「全面通行禁止」ではなく、当該地域での環境再生に資する道路交通政策の総体であった。

道路連絡会の有名無実化を狙っているとは思えない事態に対して、原告・弁護士は2002年10月公害等調整委員会（以下、公調委と略）に「和解条項を誠実に履行せよ」とのあつせんを申請した。公調委は調査、審議の上、翌年6月、双方合意のあつせんを成立させた。現在の連絡会はこのあつせん合意をもとに施策を検討・協議する場として、公開が原則

# 視点 SHITEN

環境再生にかかわる課題を、さまざまな視点から自由に論じるコーナーです。

となってようやく正常化した。これまで「大型車の交通量低減のための意向調査」(05年3月)、「環境ロードプライシングの試行」(06年6月～8月)、「警察庁への大型車規制の検討依頼」(07年7月)、「同回答」(08年6月)、「環境ロードプライシングの本格実施」(09年4月)と成果を挙げてきている。43号線歩道橋のバリアフリー問題も協議が続けられている。

## 道路政策が変わる瞬間を見たい

しかし、施策展開は遅い。すでに和解放から10年が経とうとしている。連絡会の会場いっぱい毎週詰めかけてこられる患者さんから、「わたしが死ぬのを待っているのか!」と罵声が飛ぶのもうなづける。その理由は、ひとえに国の道路政策転換の遅れである。道路の無駄遣いや特定財源問題が議論され、道路政策もようやく変わりつつあると見えるが、本音は従来どおり作り続けたいということにある。「地域の環境と暮らしやすさを保障するための道路政策」という観点はまだない。道路政策の転換はそれが実現してはじめて本物となる。そして、それができるとすれば、道路公害被害地域が突破口になるに違いない。その瞬間を見たくて連絡会に通っているのだが、まだ当分通い続けることになるのだろうか。

(にしむら・ひろし 大阪市立大学大学院経営学研究科教授)

## シリアからの手紙

中野 貴行

### ③ 家族の温もり



の結婚が勧められるのも、家族のつながりを強める意味があるそうだ(ただし、近過ぎる近親婚はイスラム教で禁じられている)。

いつも持ち歩いてある物の一つが、家族の写真である。日本のことを伝えるのも協力隊の活動のひとつだ、という大義名分より何より、これが一番のコミュニケーションだからだ。同僚や活動で関わる村人たちは会うたびに僕に尋ねる。「家族は皆、元気か?ちゃんと連絡しているのか?」と。

朝の祈りを済ませた男たちは親戚の家から家を訪ねてはコーヒーやお菓子を味わいながら話をする。子ども達も、この日のための一張羅を来て家々を周り、家で待つ女性たちが子ども達にお菓子を渡す。午後あるいは翌日には家族みんなで親戚の家やお墓参りに行く。ちゃっかり僕もその中に混じる。

アラブという地域がそうさせるのか、家族というつながりは非常に大切にされる。シリアの公的機関は昼の2時頃になると閉まるが、「昼食は家族と」ということも珍しくない。職場を後にするシリア人は家族と食事をするために家路を急ぐ。親戚と

大家族の中で生き、家族や親戚が集まって食事をし、子育てを協力し合うシリア人の姿は、とても温かい。僕はシリアの家族も、日本の家族も

大好きだ。「この前、日本に電話したところだよ。みんな元気だ」という答えに、シリアの家族が微笑んでくれた。

(なかの・たかゆき 青年海外協力隊19年4次シリア村落開発普及員)



一張羅を着て村を周る子ども達



子どもにお菓子を渡す女性

# 歌島橋交差点の横断歩道が消えた！

藤江 徹

2009年4月1日、国道2号の歌島橋交差点（大阪市西淀川区）の改良工事・地下道整備の完了に伴い、地上の横断歩道が撤去されました。

同交差点の改良工事については国（国土交通省）、公団（阪神高速道路公団）当時を被告に争われた西淀川公害裁判の和解により設置（1998年

10月）した、「西淀川地区道路環境沿道に関する連絡会」（以下連絡会）で1999年以来、再三協議してきた事項であり、西淀川公害訴訟原告団では一貫して「人や弱者を地上から排除する」横断歩道の撤去には反対してきました。

下道の一部開通）完了に伴う横断歩道撤去の意向を示したことに對して、「まちづくりを考える会」と共同して「歌島橋交差点の横断歩道に関して、区民や利用者の尾件を幅広く集めた上で撤去の是非を検討するよう求める署名」をよびかけ、1225筆の署名を集めて、西淀川区役所、西淀川警察署、国土交通省近畿地方整備局の3者に提出しました。（2005年8月5日）

## 意見は聞き置くだけ

同連絡会を通じて、原告団は①横断歩道の撤去は「住民合意」とはいえない②第2期工事までに住民合意のもと、横断歩道撤去の是非を検討するべき③（連絡会で）原告団と約束した「歌島交差点の緑化」を行うこと、を提案するとともに「住民合意の進め方の方向性」についても示しました。

2005年春、国交省が第1期工事（地

## イメージ図には横断歩道

歌島橋交差点の工事について国が示した完成イメージ図（国が当初示したイメージ図では、横断歩道が描かれています。2003.10）

しかし、国交省は、こうした意見・

提案に対しては「聞き置く」だけの対応で、「改良工事・地下道整備後の横断歩道撤去」という自らの既定路線に「理解」を求めることに終始しました。

こうした一連の動きは、「そのけそのけクルマが通る」とクルマ優先で道路建設を推進してきた国交省の姿勢は、公害を巻き起こした従来の姿勢と変わらぬものであり、「安全と環境」を唱えてはいるものの、決して人間（利用者・市民）の方に「顔」を向けていないことは明らかです。



撤去前の様子（2009.3.31）





撤去後の様子 (2009.4.6)

「人にも環境にもやさしく」まちづくり

原告団では、このたび強行された横断歩道の撤去に対して強く抗議するとともに、引き続き「人にも環境にもやさしい」道路行政実現のために市民・利用者のみなさまとともに活動を進めることを表明し、抗議文を提出しました。

その後、地下道内の案内板についての修正が行われましたが、今後も、道路連絡会も含めて、横断歩道の復活に向けて、話し合いを続けて行きたいと思えます。  
(ふじえ・いたる あおぞら 財団事務局長)



現在大阪では、都心部を囲む川を「水の回廊」と位置づけ、船着場の整備やライトアップなど、川や水辺の賑わいを取り戻そうとするプロジェクトが進行しており、そんな水の都・大阪を広く伝えるシンボルイベントとして「水都大阪2009」が開催されます。その中で、自転車に関する普及啓発活動を実施するNPOや、地域の住まいづくり、まちづくりの専門家が、「水都大阪2009」をきっかけに、自転車をキーワードに皆が活躍しながら、大阪のまち

水都大阪 2009

「つるむ de 大阪～チャリンコでつながるまちづくり」

へのご案内



が住みやすく、これからのこどもたちが安心して暮らしていけるような取り組みをしようとしたのが「つるむ de 大阪」プロジェクトです。あおぞら財団も事務局として参加しています。8/22(10/12の会期中には、自転車ツアーやセミナー・自転車発電ライブ、おもしろ自転車体験やレンタサイクル、アート自転車&駐輪や展示会などを開催します。是非、ご参加ください。詳しくは、ホームページを御覧ください。

<http://www.tour-de-osaka.net/>

# 第13回道路連絡会が開催されました

2009年7月30日、大阪・西淀川公害裁判における国・公団との和解（1998年）の際に設置された道路連絡会の第13回が開催されました。これは、西淀川地域の道路における環境施策の円滑かつ効率的な実施に資することを目的とし、国土交通省近畿整備局、阪神高速道路公団、原告団との間で、年に一回程度開催されてきたものです。

今年も、約110名が参加し、①大型車と交通量の削減に向けた施策について、②国道43号周辺の緑化やバリアフリー化について、③環境基準設定に伴うPM2.5の測定と対策について、④歌島橋交差点について、などが討議されました。

## ①大型車と交通量の削減に向けた施策について

長年、自動車からの大気汚染で苦しめられてきた国道43号沿道地域の環境改善するためには、大型車と交通量全体の削減が欠かせません。道路連絡会では、大気環境の改善につながる施策の把握、2009年4月より拡充した環境ロードプライシングの効果が注目していましたが、未だ交通量データは示されず、その効果については明らかとはなりません。そこで、大型車・交通量削減問題は本年9月に実施する交通



量調査結果を踏まえて、私たちと協議の上、検討することが国土交通省近畿地方整備局との間で約束されました。

できる歩道空間が生まれました。緑が減った分は、一部車道を花壇とすることでカバーするという工事も行われました（写真）。

## ②国道43号沿道の緑化・歩道が整備される

2008年度の事業で、国道43号の一部緑地を歩道化し、車椅子や自転車でも通行

## ③環境基準設定に伴うPM2.5の測定と対策について

環境省中央環境審議会大気環境部会が、本年7月2日に「微小粒子状物質に係る環

表 平成 20 年度の西淀川地域内での PM2.5 測定値

		年平均値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )				24時間値 (2%除外値)				測定方法
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	
①	大和田西交差点 (国道43号)	28.7	26.7	25.1	23.1	56.0	57.2	58.8	46.4	$\beta$ 線吸収法 <sup>※)注2</sup>
②	歌島橋交差点 (国道2号)	—	—	29.6	26.0	—	—	67.9	48.1	$\beta$ 線吸収法 <sup>※)注2</sup>
③	新佃公園前 (国道2号)	26.1	25.6	23.5	20.7	56.7	58.0	65.5	43.1	$\beta$ 線吸収法 <sup>※)注2</sup>
④	出来島小学校 (国道43号)	23.8	22.5	20.4	—	48.9	50.2	49.8	—	TEOM法 <sup>※)注3</sup>
基準	米国(環境基準) <sup>※)注1</sup>	15				35				FRM(標準測定方法)
	WHO(ガイドライン)	10				25				—

④ 歌島橋交差点  
こころ  
歌島橋交差点については、4月に強行された横断歩道撤去に関連し、これまでの経緯について著しく信義に欠けた対応であることを強く抗議しました。今後、歌島橋交差点地下横断歩道整備の効果については、横断歩道撤去の是非も含めて利用者アンケートをとり、結果を反映していくことを約束しました。

環境基準の設定について(答申案)を取りまとめました。ここでは、PM2.5(微粒子状物質)の環境基準が米国並みの水準として示され、ようやく環境基準の設定についての道筋が見えてきました。既に西淀川地域では、先行してPM2.5の測定が行われていますが、大幅に答申案を上回る数値となっています。原告団では、これらに対して、早急な対策を求め、引き続き真剣に協議、対策をとることを国交省と約束しました。

## NO<sub>2</sub> SPM の環境基準「達成」?

上田敏幸

大阪府は2009年6月8日、「大気汚染を監視する約100カ所の測定局すべてで、2008年度に初めて二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)と浮遊粒子状物質(SPM)の測定結果が国の環境基準を達成した」と発表した。

どちらも自動車などが排出する代表的な大気汚染物質で、NO<sub>2</sub>は、住宅地などにある一般環境大気測定局(一般局)66カ所で、すでに6年連続で国の基準を満たしていたが、今回は道路沿道にある自動車排出ガス測定局(自排局)38局全局で基準を「達成」した。

空気がきれいになるのは、大変喜ばしいことだが手放しでは喜べない。

NO<sub>2</sub>の環境基準は、1時間値の日平均98%値0.04~0.06ppmのゾーン内またはそれ以下と定められている。この基準値は1978年、すったもんだの末にこれまでの環境基準を2~3倍に大幅緩和したもので、公害患者をはじめ府民の強い反発を招いた。

当時の環境庁は「0.06ppmを超える地域は7年以内に0.06ppm達成に努める」「ゾーン内、または0.04ppm以下の地域は原則として現状程度の水準維持又は大きく上まわらない(非悪化の原則)と告示してスタートしたが、その後の現実には「0.06ppmまでは汚染してもよい」とばかりに対策はおざなりで、7年どころか30年以上かかってしまったのである。しかも「達成」といっても上限値をクリアしたにすぎない。

NOxPM法による自動車単体の規制や条例による流入規制の効果とあわせて、全国各地に広がった大気汚染公害裁判をはじめとした粘り強い市民運動が「達成」の後押しをしたことを忘れてはならない。

またSPMは一般局66カ所と自排局35カ所で、4年ぶりに基準を達成した。「やっと」の思いがよぎると同時に、いま環境基準の制定に向けて動き出したPM2.5がNO<sub>2</sub>の二の舞とならないことを強く願うものである。近年深刻化を増す光化学スモッグによって発生する光化学オキシダント(Ox)の環境基準の達成とあわせて、効果的で実効ある対策が求められている。

(うえだ・としゆき 財団総務・エコドライブ担当)

# 「アイスト通信」「アイストリーフ」ができました

「アイドリングストップを通して進める温暖化防止」を目的に、外部電源式給電システムの普及を進めているアイスト倶楽部が発行する壁新聞「アイスト通信」2009年8月号ができました。

外部電源式給電システムの普及を伝える「いよいよ高速道路にアイストが出現！」では、中日本高速道路株式会社の談合坂(山梨県)と土山(滋賀県)両サービスエリアで給電スタンドが7月17日にオープン。牧之原サービスエリアも今秋の供用開始をめざしています。

また、アイストシステムの利用促進を図るため、トラックドライバー向けリーフレット

**アイスト通信**  
2009年8月号発行 | アイスト倶楽部 | 編集: 本村のり子

**いよいよ高速道路にアイストが出現!**  
外部電源式給電システム  
談合坂SA 土山SA 今秋導入予定

アイドリングストップを通して進める温暖化防止。外部電源式給電システムは、アイドリングストップ時にエンジンを停止させ、外部電源から電力を供給することで、CO2排出量を削減します。

**アイスト倶楽部**

ット「電気の子カラがドライバーと環境を守ります」を発行。「中日本高速」のサービスエリアやパーキングエリアで配布しています。

## エコ・安全ドライブの成果を伝えます！パンフレット制作中

エコ・安全ドライブのいっそうの普及・促進をめざして、あおぞら財団の企画・制作による「エコドライブレポート」つばめ急便の巻」の制作が進んでいます。2005年から始ま

**エコドライブレポート**  
つばめ急便

**アイドリングストップの環境よ!**  
電気の子カラがドライバーと環境を守ります。

**アイスト導入の流れ**

**システムについて**

**経済+環境 Wでよく!**

つた大阪府トラック協会河北支部39社のみなさんとはじめたエコドライブ。4年目を迎えて、1石四鳥の成果(①コスト削減②安全運転③環境対策④ドライバーとしての誇り)が広がりを見せています。これらの成果を、荷主・利用者にも分かりやすく伝えようと株式会社つばめ急便様のご協力の下、パンフレットづくりが大詰めを迎えています。同レポートの取材には大阪経済大学の森井隆二さんが協力しています。

(上田敏幸・あおぞら財団総務、エコドライブ担当)



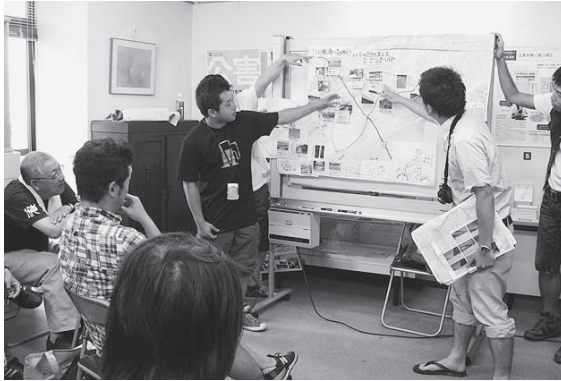
# 環境再生・まちづくりとNPOの若手交流会

## 「自称若手」含め21人

7月24日、「環境再生・まちづくり」とりくむNPOの若手交流会」が行われました。

公害の起こった地域で環境再生・まちづくりにとりくむNPO同士、もつと交流しようとした交流会、今年には西淀川で行われました。

今年には東京公害患者と家族の会から1名、名古屋南部地域再生センターから2名、四日市再生「公害市民塾」から1名・尼崎



南部再生研究室から3名・

水島地域環境

再生財団から

3名そしてあ

おぞら財団か

ら11名で、計

21名の参加で

した。

まちあるき

シジミ取り

最初は西淀

川公害の話と

財団の活動紹

## 眞鍋麻衣子

介から始まり、続いて4班に分かれて西淀川まち歩き、自転車巡りに出かけ、最後は合流して淀川でシジミとりをしました。

最初はおそろのおそろの川に入った人も、しばらくするとノリノリに☆大漁でした！

その後は財団に帰って西淀川マップをつくり、各班発表です。

「(シジミとりをしている時)川の後ろにビルがたくさん見えるのって何か不思議」「財団職員と地域の方との間に培ってきた信頼関係を感じた」などなど、普段私

### 参加者の感想 (一部抜粋)

▼まちあるき・シジミ掘りともに貴重な体験をさせていただきありがとうございます。お隣ながらこれまでお邪魔する機会がなかったのですが、立地や街の雰囲気は尼崎との共通点も多く今後、色々なお付き合いができればと思います。

(尼崎・若狭健作)

▼いろいろ勉強しました。四日市は大気汚染の原点としてこれまで、積極的に活動ができませんでしたが、近年は市民運動の広がりもあり、これからという状況です。また呼んでください。

(四日市・榊枝正史)

### 活動や悩みを出っか

この後は各地域の活動や悩みなどを交流しました。皆さん色んなことをされているんですね。

「海底ゴミに取り組んでいる」「事務局メンバーだけでなく街の人たちに取り組んでもらわないと広がらない」などなど、面白い交流しながらこの日の夜は更けていったのでした。

他地域の方との交流、とても実のあるものになったと思います。これをこれからの活動に活かしていきたいですね。参加されたみなさん、お疲れ様でした。来年もぜひ交流しましょう。

(まなべ・まいこ) あおぞら財団(研究員)

▼四日市の新しいうごきなんかワクワクしますね。西淀川でも、学生さんやボランティアのみなさんの動きが、「活力」や新しい活動につながるといういな。

(あおぞら財団・上田敏幸)

▼各グループの参加者が見た西淀川を知ることができ、発表もグループごとの特色がでて、おもしろかったです。意見交換会も、各団体の活動の悩みなどを掘り下げて話すことができ良かったです。NPOという特殊な団体が、持続可能な団体になるためにも、活動している者同士、悩みや課題を共有しようしたら良いか考えていくことが大切だと感じました。

(あおぞら財団・小平智子)

# ほっと ニュース

## 韓国から司法修習生

7月3日(金)に韓国から司法修習生があおぞら財団を訪問しました(10名プラス通訳2名)。

西淀川公害とあおぞら財団の説明・紹介の後、西淀川公害と環境資料館(エコミュージズ)を見学しました。

その後は公害患者の大西慶子さんのお話と、村松弁護士による西淀川公害訴訟のレクチャー、そして森脇理事による公害闘争のお話がありました。

最後は中島弁護士から日本の公害

環境訴訟の歴史と弁護士の役割についてお話がありました。韓国でも今、公害訴訟が起こっているそうです。

韓国のみなさん、そして通訳のベさん、金さん、どうもありがとうございました&お疲れ様でした。

## おねがいとお知らせ

リベラへのご意見・ご要望または投稿をお待ちしています。また、メール通信「あおぞらEXPRESS」を開通しています。ぜひご利用下さい。配信を希望される方は

<http://groups.yahoo.co.jp/group/aozora-mail/>

から登録できます。

## 新理事長に村松理事

### 森脇さん勇退



村松新理事長

財団法人公害地域再生センター理事会は2009年7月1日、書面による議決により第24回評議員会で選任していた理事から全員一致で村松昭夫理事を理事長に選びました。財団発足時から理事長を務めてきた森脇君雄理事は勇退します。任期は2年間。

## リレーエッセー

夢中になって説明していた。「大阪経済大学の学生です」「子どもたちと一緒にカフェを開きたいと思っています」去年の冬、場所は摂津市正雀本町、町内会長自宅の玄関先だった。学外でコミユニティカフェを開くために、一緒に働いてくれる小学生を探していたのだ。20分くらい話していたらどうか。会長が何人かのお母さんたちに連絡をとってくれた。「やったあ、子どもが決まった」メンバーに連絡する自分の声は裏返っていた。

私は大学3年目に、現代GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)の学生実行委員会に入った。きっかけはゼミで作った太陽光発電に関するプレゼンテーションを「GP」メンバーの前で発表して欲しいと頼まれたこと。当時、「GP」では学内に市民共同発電所を設置できないかと模索しており、太陽光パネルを学校の屋根に設置する計画を立てていたのだ。プレゼンが終わり、一緒に活動して欲しいと頼まれると、なぜかやってみようと思った。その頃は、環境問題に関心があったわけでは無かった。ただ、白紙の紙の上に自分の企画を書き込んだ。

## 自分たちにできること

### 森井 隆二

でいけることに小さな喜びがあった。「GP」で活動を行っていると、温暖化問題について最先端の情報を得ることができた。そしてそこで初めて知った、温暖化問題とは、「ただ気温が上がって、海面が少々上がる程度の問題」ではないのだということ。しかしこのとき、私は温暖化問題の規模の大きさを知って、ふと思ったことがある。何千万円かけて太陽光パネルを1基設置したところで、日本のエネルギー供給全体から見れば無いに等しいものだ。それなのに、その1基すら建設することがままならない。ましてや学生という身分である自分たちが活動を行なうって、何を成すことができるのか。

答えは出なかった。しかし、伝えたかった。自分たちの活動を、知ってもらいたかった。コミュニティカフェはそんな思いから企画したものだ。今、大阪経済大学に現代GPはない。しかし、そこで学んだ私たちは、今も活動を続けている。(もりい・りゅうじ 大阪経済大学 経済学部 地域政策学科4年生)

\*このコーナーでは、あおぞら財団と一緒に活動するスタッフの近況報告をかねた一言を紹介します。

- 1日(月) 全国公害被害者総行動デー(参加、~2日)
- 3日(水) 拡大事務局会議  
職員面接
- 5日(金) ECOまちネットワークよどがわ編集会議
- 6日(土) 探鳥会
- 9日(火) 事務局会議  
道路環境市民塾出版部会議
- 11日(木) てづくりせつけん教室  
甲南大学講義(林)
- 12日(金) スタディツアー第2回統括会議
- 13日(土) 日本国際理解教育学会報告(林)  
東大阪市・平成21年度地域まちづくり活動助成金審査会(藤江)  
東大阪ポッポ第2保育園フードマイレージ講習(林)
- 15日(月) 事務局会議
- 16日(火) 資料館定例会議
- 17日(水) 資料館スタッフ会議
- 19日(金) 資料館スタッフ会議
- 21日(日) 第一回西淀川交通まちづくり意見交換会
- 22日(月) 温暖化防止活動推進員OJT研修講座(講師林)  
西淀川IESD全体会議
- 23日(火) 事務局会議  
道路環境市民塾運営会議
- 24日(水) 自転車文化タウンづくりの会総会
- 25日(木) 西淀病院地域診断調査打合せ会(参加)
- 26日(金) 評議員会
- 27日(土) 名古屋南部地域再生センター総会記念講演(林)
- 28日(日) 理事会  
韓国MBC放送取材(~30日)
- 29日(月) 第1回地域資料研究会  
大阪府立茨木高校フードマイレージ講師(林)
- 30日(火) 事務局会議  
あおぞらプロジェクト学習会

6月

事務局日誌

7月

- 1日(水) 子どもの参画べんきょう会
- 2日(木) 桃山学院大学講義(林)  
市民塾出版部会議
- 3日(金) スタディツアー第3回統括会議  
ボランティアの日  
ECOまちネットワークよどがわ編集会議  
リベラ放送  
韓国司法修習生受入  
大阪経済大学柏原ゼミ受入
- 4日(土) 探鳥会
- 5日(日) 京都府温暖化防止活動推進センターOJT研修講義(林)
- 7日(火) 拡大事務局会議  
あおぞらプロジェクト事務局会議
- 8日(水) ECOまちネットワークよどがわ  
大阪経済大学キャリアデザイン講義(林)  
フードマイレージ教材化研究会
- 9日(木) ガールスカウト大阪府支部団連絡会
- 11日(土) イ病スタディツアー事前勉強会
- 12日(日) 西淀川IESD会議
- 13日(月) インターン井上氏(滋賀県立大学)来所
- 14日(火) 事務局会議  
インターン岡田氏(桃山学院大学)来所  
大阪経済大学キャリアデザイン講義(林)
- 15日(水) 資料館定例会議
- 17日(金) 資料館スタッフ会議
- 19日(日) テツカフェinあおぞらビル  
イ病スタディツアー事前勉強会
- 21日(火) 事務局会議  
大阪市地域福祉活動推進委員会(藤江)
- 24日(金) 環境再生まちづくりととりくむNPOの若手交流会
- 26日(日) 第二回西淀川交通まちづくり意見交換会  
公開シンポジウム「市民社会の財産としての公文書・地域資料を考える」(参加)
- 27日(月) スタディツアー統括会議  
常務会
- 28日(火) 事務局会議  
地域資料シンポ実行委員会 事前研究会(通算第12回)
- 29日(水) 道路環境市民塾-COP15ミニ学習会「コペンハーゲン会議について」
- 30日(木) 大阪府温暖化防止活動推進センターOJT研修(講師林)
- 31日(金) 第13回西淀川道路連絡会  
全国高校生活指導研究協議会大会プレ企画コラボ型授業フードマイレージ(林)

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会

(日本野鳥の会大阪支部との共催)  
日時 10月7日(土) 午前9時30分  
午後12時30分頃(現地解散)  
集合 阪神電鉄西大阪線「福」駅  
改札口 午前9時30分  
場所 矢倉緑地公園

お礼

(2009年6月・7月 敬称略)  
●寄付・寄贈者  
相川泰、浅井真二、朝日新聞社東

あおぞら財団「ボランティア」の日  
毎月第1金曜日はあおぞら財団ボランティアの日です。  
環境NPOの仕事を経験してみませんか?  
お問合せ、お待ちしております。

京本社、新井真、栗屋かよ子、E S D-J、池田風弥、井関和彦、上杉剛、植田和弘、上田幹枝、遠地昭典、遠藤宏一、大口耕吉朗、尾崎寛直、学芸出版社、柏原純夫、片岡直樹、川口徹也、川崎美栄子、(財)環境科学総合研究所、(株)環境ビジネスエージェンシー、北泊謙太郎、木野達夫、功刀恵美子、蔵本幸治、神戸学院大学、(株)神戸製鋼所、小林俊康、是枝洋、酒井健一、坂本浩二、裕子、澤井余志郎、清水万由子、庄谷邦幸、高木勲寛、

●お助けボランティア参加者  
浅井真二、大野みさ子、佐成志朗、谷畔ツバサ、梁和俣

●入会ありがとうございます  
吉田運送株式会社

辰巳正夫、田中久美子、津留崎直美、豊岡市立八代小学校、中杉喜代司、長瀬文雄、西口勲、新田保次、日本福祉大学、福本富男、ポッポ第2保育園、松村暢彦、三宅宏司、村松昭夫、山崎圭一、除本理史

【編集後記】 大阪の中、高校生はいつもの年より夏休みが短い。新型インフルエンザによる休校措置の影響ではほとんどの中学校、高校は8月中旬に始業式を迎えた。俣の中学校は、休校時に沖縄への修学旅行がぶつかり8月末に延期されていたのだが、その実施がまたもインフルエンザで果たせなくなった。旅先を変更して修学旅行の取りやめだけは避ける努力が続いているようだが、受験生に与えられる時間は限られている。高校入試が始まる冬になってインフルエンザが猛威をふるわないことを祈るばかりだ。(T)

「Libella」No.110 2009年9月号(隔月1日、年6回発行)  
発行所 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)  
編集人 上田敏幸

大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階  
Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885  
http://www.aozora.or.jp/  
E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション  
定価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。  
郵便振替口座 00960-9-124893(加入者名 あおぞら財団)  
乱丁・落丁はお取り替えます。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。

いしづか ゆうこ  
石塚 裕子

# みんなのまちづくりの思いを 「かたち」にするお手伝いを

はじめまして。今年の5月から特別研究員として、あおぞら財団にお世話になっています。

## 「ひと」の多様性に 答えていくことの大切さ

これまで、建設コンサルタント会社に勤務し、関西圏を中心に様々な地域、地区のまちづくり支援の仕事をしてきました。思い起こせば（かなり昔ですが）、大学での卒論テーマ設定時から「ひと」を中心とした交通やまちづくりに興味を持って取り組んでいます。

「ひと」を中心に考えるということは、



「ひと」の多様性に答えていくということです。仕事で関わった交通バリアフリーのまちづくりでは、子どもから高齢者、車いす使用者、視覚障がい者、聴覚障がい者など、様々な「ひと」の意見を聞き、市民、事業者、行政など立場の異なる多様な人々が協働で、ひとつのこと（計画）をつくる大切さや大変さを学びました。その中で、ひとやひとのまちへの思いの多様性を感じ、その多様な思いや願いを計画という「かたち」にすることに、責任感とやりがいを感じました。

## 西淀川の交通まちづくりを 「かたち」に

あおぞら財団では、大阪大学新田保次教授と京都大学植田和弘教授（共に財団理事）が主催する西淀川地域再生研究会による「西淀川交通まちづくり意見交換会（以下、意見交換会）」のお手伝いをしています。

意見交換会では、参加者の西淀川に対する愛着や誇りをヒシヒシと感じ、様々な思いを聞くことができました。そして、そこに学識経験者による専門的な知識を加えることで、さらに意見が変化し、多様化、深化しています。この多様性を活かしつつ、市民と専門家による協働の成果として、ど

のような「かたち」が創り出されるのか、ワクワクしながらお手伝いしています。

## 青い空を実現するために

また、先日は第13回西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会（以下、連絡会）に初めて参加しました。連絡会は大阪・西淀川公害裁判において原告・国・公団との間で交わされた和解決項に基づいて設置された会で1998年から毎年1回開催されています。

ここでは「手渡したいのは青い空」という多様ではなく唯一の願いを達成することが目的です。しかし、国土交通省近畿地方整備局（国）、阪神高速道路公団（事業者）、原告団（住民）と立場が異なれば、願いは一つでも、アプローチが異なり、表現が異なり、なかなか「かたち」が見えない、創っていくことが難しいと感じました。

しかし、後世に青い空を残していくために、常に前を向き頑張っておられる患者の方々をはじめ、それを支える財団スタッフの方に刺激を受けて、私も皆さんのまちづくりへの思いを「かたち」にするお手伝いできればと思っています。